



社会課題

深刻なIT人材不足

日本の初等教育段階におけるIT/STEM教育\*1の機会不平等

■ 取り組み概要

- ✓ 将来のIT人材不足対応として、小学生向けIT・プログラミング出張授業を企画・実施
- ✓ システム部門主導で教材を内製し、MUIT\*2 ITアカデミーの知見を活用した実践的カリキュラムを提供
- ✓ 営業店の地域ネットワークを活かし、学校と連携した早期開催を実現



考えたことが

DXやAIへの注目が高まる一方で、IT人材の需要に対して供給が大きく不足している現状に強い課題意識を持ったその背景には、日本の教育現場で理系・IT教育が十分に行われていない問題があると捉えた

また、銀行は多くのIT人材を必要とする当事者であり、不足を生み出す側でもある以上、教育に貢献する責務があると考え、IT教育企画を検討

短期的な収益ではなく、将来を見据えた人材育成こそが銀行の使命であり、社会的意義と自社のITサービスの持続性の双方につながると判断

教育委員会と連携し、ITリテラシーを有する教員不足等の課題に対応するため、小学生向けプログラミング学習ツールを開発

Scratch\*3等を活用した実践型授業により児童の理解と関心を高めるとともに、教員の負担軽減にも寄与し、学校・児童双方から高い評価を得た

社員の講師参加を通じて社会貢献と専門性発揮の機会を創出し、エンゲージメント向上にも寄与

今後は他地域や中高・大学との連携へ拡大し、教育段階を通じた人材育成基盤の構築をめざす



実現することが

\*1 S : Science (科学) T : Technology (技術) E : Engineering (工学) M : Mathematics (数学) を関連づけて学ぶ教育 \*2 三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社

\*3 初心者向けのプログラミング言語。テキストではなく、ブロックをドラッグ&ドロップしてプログラムを作成することで基本概念を直感的に学ぶことができる

## ストーリー15

## 小学生へのIT出張授業

### ■ 初等教育からのIT人材育成に向けたプログラミング教育を支援

- ・ 国内におけるIT人材不足の背景として、公立教育における理系・IT教育の基盤の弱さに課題認識を持ち、需要拡大と供給不足の構造に危機感を抱いていた
- ・ 当行もIT人材を必要とする立場として教育への貢献責任を認識し、進路選択に影響を与える原体験の重要性から小学生段階での教育機会提供に着目
- ・ 教育委員会と連携し、MUITアカデミーの知見を活用したプログラミング授業を実施、教員の専門性不足を補完し実践的な学習機会を提供
- ・ 児童の学習意欲向上と教育現場のニーズに応えるとともに、社員の社会貢献意識やエンゲージメント向上にも寄与した取り組みである

### ■ MUFNGがめざす価値創造



#### 施策・取り組み

- ✓ 小学生へのIT出張授業
  - 学習指導要領に則ったコンテンツ開発
  - 高度なITスキルを持つ人材による授業の提供
  - IT人材の専門性発揮と顧客接点創出

#### 社会的インパクト・達成したい状況

##### 短～中期

- ✓ 早期教育によりIT人材の裾野が拡大
- ✓ IT教育機会の公平な拡大
- ✓ 社内のIT人材の社会貢献実感によるエンゲージメント向上

##### 長期

- ✓ IT人材不足の解消
- ✓ 持続可能な金融システム基盤の整備
- ✓ 社員の活躍、社会課題解決を通じた企業価値向上

## ■ 担い手は語る

Q どのような想いで本取り組みを行いましたか？

**A** IT人材は需要が増えているにもかかわらず、その母集団が圧倒的に足りていないという現実に強い危機感を持っていました。

銀行は毎年、多くのIT人材に支えられてシステムを動かしており、その不足の一端を担っている当事者でもあります。だからこそ、人材が自然に増えるのを待つのではなく、自分たちが教育に関わるべきだと考えました。

今回の取り組みでは専門性を持つ社員が小学生にITを教えることで、教育現場の課題に応えると同時に、社員自身が自分の知識や仕事が社会にどう役立っているのかを実感できる機会にもなりました。また、システム部門は業務特性上、社会や他者への貢献を直接的に実感しにくい面があります。本取り組みは、業務と社会を直接つなぐものであり、社員のエンゲージメント向上にもつながる意義のあるものだと考えています。

Q 今後取り組んでいきたいことはありますか？

**A** 今回の取り組みを一過性の活動にせず、継続的な人材育成につなげていきたいと考えています。今後は、小学校でのIT教育を他地域にも広げるとともに、中学校・高校への展開を検討していきます。

さらに、専門性を高める場として大学との連携なども検討していきます。初等教育で芽生えた興味関心、中等教育で身に着けた基礎知識を高等教育で実践する形で人材育成に関わっていきたいと考えています。また、本取り組みのように業務と社会を直接つなぐ機会を広げることで、社員が自分の仕事の意義を実感できる環境をこれからもつくっていきたいと考えています。



参加した社員